



カトリック高幡教会のルルドのマリア

## 「ただで受けたのだから、ただで与えなさい」 (マタイ 10・8)

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

「ただで受けたのだから、ただで与えなさい」 (マタイ 10・8)。これは、イエスが、福音をのべ伝えるために使徒たちを派遣する際に、無償の愛のわざを通してみ国を広めるよう述べたことばです。

人はだれもが貧しく、助けを求めており、必要なものに事欠いています。生まれたときには、両親に世話してもらわなければ生きていけません。それと同様に、人生のあらゆる段階や局面で、わたしたちは皆、他者を必要とし、助けを求めずにはられません。また、ある人や物の前で自分の無力さを実感するという限界から逃れることもできません。こうしたことは、わたしたちが「被造物」であることを表す特徴でもあります。この事実を率直に認めることにより、わたしたちは謙虚さを保ち、生きるうえで欠かせない徳である連帯を、勇気をもって実践するよう促されます。

わたしは「病者の回復」であるマリアに、皆さんをゆだねます。わたしたちが対話と相互受容の精神のもとに受けたたまものを分かち合い、他者の必要に心を配りながら兄弟姉妹として生き、寛大な心で与えるすべを身につけ、私欲にとらわれずに奉仕する喜びを知ることができるよう、マリアが助けてくださいますように。わたしは祈りのうちに皆さんに寄り添うことを約束し、心から使徒的祝福を送ります。

教皇フランシスコ

(参照：第 27 回「世界病者の日」教皇メッセージにて)